

千葉大学の知的アイデンティティとしての CURATOR

土屋俊

(千葉大学附属図書館)

大学の社会的役割の変化

- これまでは
 - 研究⇒研究者へ向けた論文執筆
 - 社会との接点は将来への人材養成
 - ⇒ いわゆる「象牙の塔」(Ivory tower)
- これからは
 - 社会の知識化・情報化
 - ⇒ 高等教育の社会的機能の拡大
 - ⇒ 研究成果の直接還元
 - 知の継承(従来の役割)⇒人類的貢献

この変化に対応するためには

- 大学としての知的存在の主張が必要
 1. 大学がどれだけの教育資源を持っているかを示すことが必要
 - 従来の学部入試広報(人材養成ストーリー)では不十分
 2. 大学がどれだけの知的生産を行っているかを示すことが必要
 - 評価された研究業績の提供(業界も含めて)
 3. 大学がどれだけの知的資産を持っているかを示すことが必要
 - メタデータの集約とその提供・他大学との協力

印刷物の時代には、手が出なかった

- 直接の効果を評価できない垂れ流しの広報
 - 伝統があるので志望したのか、今の教育を知って志望したのか
- 経費がかかる「紀要」「抜き刷り」の送付、配布
 - 知り合いにだけ知らせる仕組み⇒「象牙の塔」の再生産
- 冊子体の目録類（「継続購入図書目録」、「データベース目録」等々々々々々々々々々々々……）
 - これらはすべて大学作製ではない。大学は、貴重書の目録を刊行していたが、そこまで。NACSISで変わったことは事実

電子化の時代には可能！

- インフラは整備済み(つまり、Internet)
- ほんのわずかの追加投資(サーバはPC、ソフトはオープンソース)
- 必要、あるいは面白いと思った人が自由に利用可能にできる
- 目録はすでにオンライン(OPAC、WebCat、そしてScirus、Google)
- メタデータは相互に「収穫」できる

千葉大学の知的アイデンティティとは？

- 現在の研究活動の水準
 - Peer reviewed journalへの投稿は1970年以降で14000本、最近は毎年1200本程度(Web of Scienceデータ)
 - 同じく毎年、約1400本(SCOPUSデータ)
 - 人文社会系では測定が困難だが、、、
- 現在の研究活動の特徴
 - 4つの21世紀COE(がん、応用物理、看護、公共)
- 前身各校からの蓄積
 - 医科大学、高等工芸、高等園芸、腐敗研究所等
- 紀要・データベース・標本・「サイエンス・プロムナード」・教養部総合科目等々

研究成果の水準は絶対値では むずかしいので、、、、

- 朝日新聞社『大学ランキング』によれば
 - 被引用数(2000年から2004年までの総和)
 - 総合で12位
 - 化学で9位
 - 臨床医学で8位
 - 薬学・薬理学で3位
 - もっとも、あまり引用数ばかりに頼ってはいけないというお達しもあるけれど、、、、

COEは面白い

- 応用物理学分野について：
 - かつては購読していなかった(できなかった)高額誌の活用が進展
 - その高額誌への投稿数も増えている
- 看護学分野について：
 - 日本語の文献への需要が増大
 - この分野の文献事情が、ILLの状況からわかってきている

さまざまな資料、でも大学としてはちゃんとやっていないので恥ずかしい

- 高等工芸所蔵デザイン関係図書データベース化
 - 平成12年から
 - 著作権の関係がまだ処理しきれていない
- 亥鼻分館所蔵古医書目録
 - 十分な電子化ができていない
 - コンテンツの電子化は少し
- 薬学部さく葉データベース(同窓会の努力)

紀要の電子化も馬鹿にならない

- 依然として紀要が意味をもつ分野が多い
 - 人文社会系のほとんどの分野
 - 卒論の重要な情報源
 - そういえば紀要の交換が、書簡の次の学術コミュニケーション
- せめて画像の電子化をおわらせないといけない
 - もうすぐ終わるはず
- すべての紀要が電子化されたらどんなに便利か

アイデンティティには表現が必要

- 情動的ブランディングの必要性
 - Webデザイン
 - ロゴ、グッズ
- しかし、大学ではなんといっても
 - 研究成果が直接見られることを保証したい
 - 教育の内容ができるだけよくわかるようにしたい
 - これまでの蓄積をできるだけ社会的に活用してもらいたい(利益の相反は別途解決するとして)
- だから、「機関リポジトリ」!

利益の相反に関する脚注

- 知的財産扱いがいろいろ
 - 研究成果発表と特許との時間的關係
 - 大学の利益・研究者の利益・企業の利益
 - 共同特許における不行使の補償
 - 学術雑誌刊行モデルにおける「著者の権利」の問題
 - 昨今のNIH、RCUK、Wellcome Trust、MPGなどの動向に注意する。あるいは、OpenChoice, OpenOnline, NARなどなど

要するに、機関リポジトリとは

- 機関の責任において設置され、運営される
- 機関の資源によって設置され、運営される
 - したがって、文書を利用することによって、利用者が費用を負担することはない
- (原則として) 機関内で作成された文書類を保存する
- 保存は電子的に行う
 - 電子的に保存された文書は、インターネットを経由して誰でも利用可能である

Clifford Lynchの定義

ARL Bimonthly Report 226, February 2003

Institutional Repositories: Essential Infrastructure for Scholarship in the Digital Age

by Clifford A. Lynch, Executive Director, Coalition for Networked Information

a university-based institutional repository is a set of services that a university offers to the members of its community for the management and dissemination of digital materials created by the institution and its community members.

ie. Organizational commitment to stewardship of digital materials:

organization

access or distribution

long-term preservation

なぜ図書館がやるのがよいのか

- 伝統的な「図書館サービス」の延長にある
 - 利用者に資料を提供するサービスを可能にするあらゆる道具の活用が大学の目的を促進する
 - カタログからナビゲーション
 - 分類と保存、そして利用環境の保証
- 電子的資料が利用許諾によって利用するものである以上、市場流通するものを「コレクション」にはできない時代となった以上、「コレクション」な自分のところの生産物によるべき
 - しかもこれは重要な人類的知的貢献になる！

要するにCURATORとは？

- なによりも、情報化社会・インターネット社会における千葉大学のアイデンティティの証である
- しかもそれを実現することによって、
 - より広い研究成果へのアクセスを可能とし、
 - より深く、より広く教育の内容を知ってもらえ、
 - 大学としての説明責任を果たすことが可能
- だから、千葉大学としてはやるしかない
- 情報流通の電子化が進んでいる今取り組まなければ失われる資料も出てくる